

# 中小企業景気動向調査

令和7年度第3四半期(2025年10月～12月)

厚木市商工会議所

## I. 厚木地区の全体の景気動向

厚木商工会議所では、厚木市内の中小企業のうち各業種（製造業・建設業・運輸業・小売業・飲食業・卸売業・不動産業・サービス業）から選出した840の事業所様を対象に、四半期ごとに厚木市内の景気動向に関する調査を実施しております。

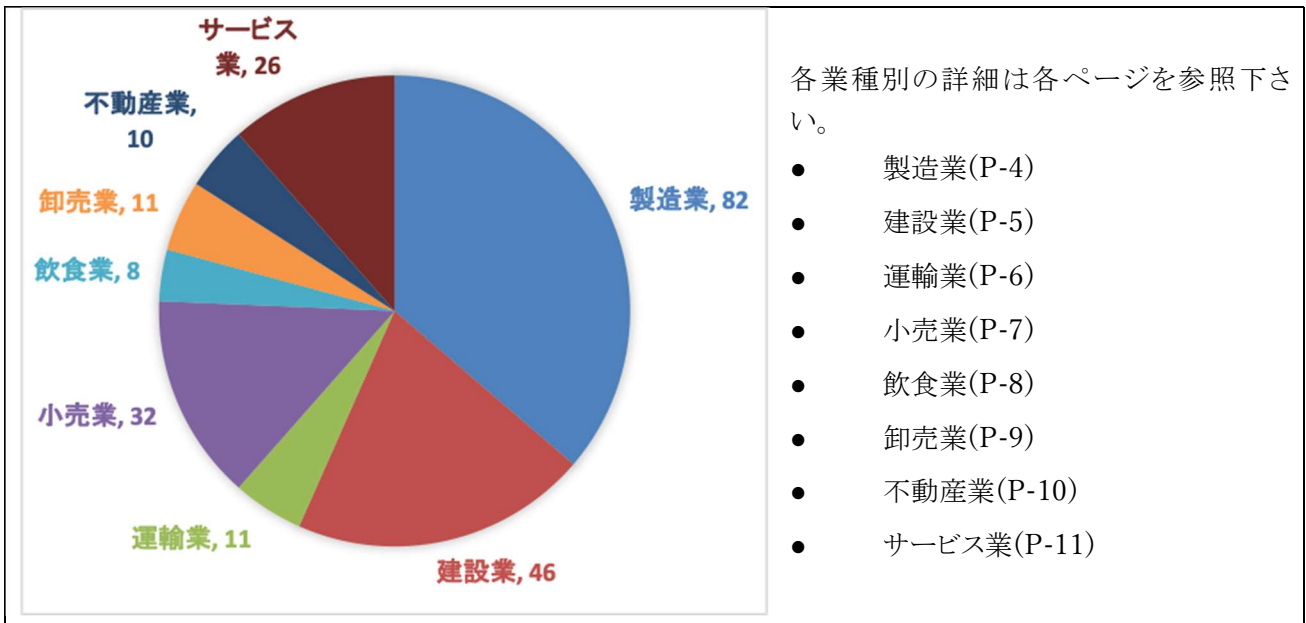
今回の調査は令和7年12月24日付で実施し、ハガキとWebの2種類の形式で回答を受け付けました。合計226件のご回答をいただき、ご多忙の中ご協力いただきました事業所様には心より感謝を申し上げます。

本報告書では、いただいた回答を集計し、業況判断はDI値で、経営上の課題については構成比（%）で表示しています。また、全体と業種ごとに詳細な分析結果を掲載しています。本報告が、今後の経営の参考になれば幸いです。

### 1. 調査票の回収内訳

調査対象業種は製造業・建設業・運輸業・小売業・飲食業・卸売業・不動産業・サービス業の8業種。回収企業数の割合を下図に示す。注)各業種の数値は、ハガキ・Webの回収を合計したもの。

2025年度第3四半期・アンケート回収状況(ハガキ+Webの合計)



## 2. まとめの DI

### 1). 業種別総合の値

業種	業況DI値		次期業況見込み	
	今四半期	前四半期	今四半期	前四半期
製造業	▲ 14.6	▲ 27.4	▲ 2.4	▲ 16.7
建設業	▲ 4.3	▲ 2.3	8.7	0.0
運輸業	9.1	▲ 10.0	▲ 18.2	0.0
小売業	▲ 21.9	▲ 22.2	▲ 18.8	▲ 16.7
飲食業	▲ 12.5	▲ 33.3	▲ 12.5	▲ 11.1
卸売業	▲ 9.1	▲ 18.8	▲ 18.2	▲ 18.8
不動産業	10.0	▲ 5.6	▲ 20.0	▲ 5.6
サービス業	▲ 7.7	▲ 18.2	▲ 30.8	▲ 20.5
全業種	▲ 19.5	▲ 25.7	▲ 11.9	▲ 16.9

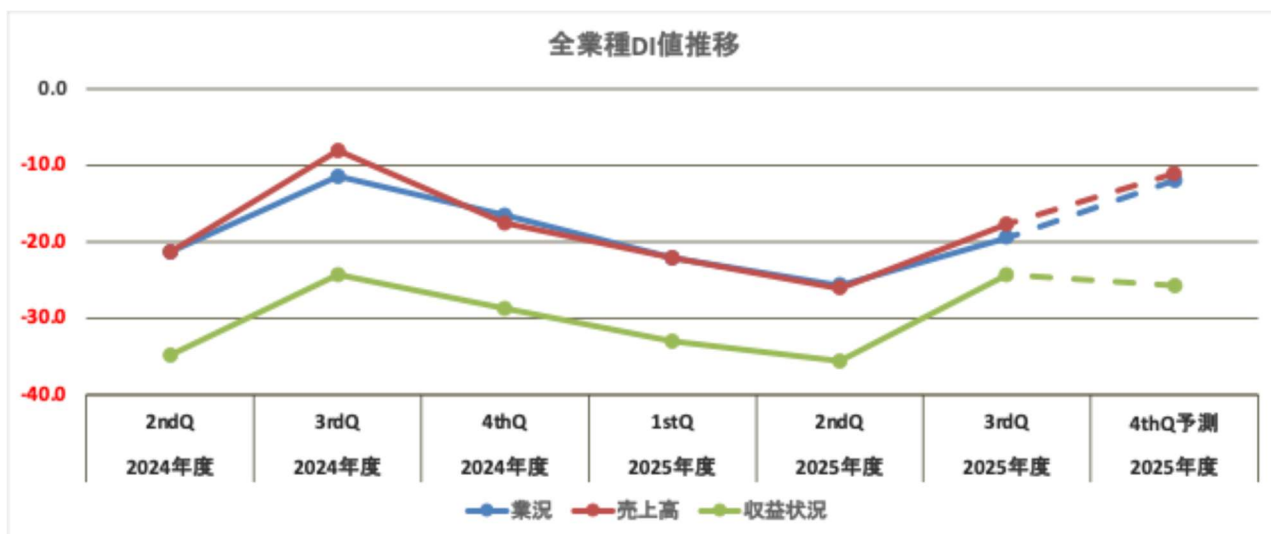
◎今第3四半期(10~12月期)における厚木地区の調査対象中小企業経営者の景況感は、業況DI値が▲19.5となり、前期(第2四半期)の▲25.7から全業種平均で6.2ポイント改善した。

業種別にみると、低下したのは建設業(▲2.1)だけで、その他の業種は、飲食業(20.8)、運輸業(19.1)、不動産業(15.6)、製造業(12.7)、サービス業(10.5)、卸売業(9.7)、小売業(0.3)と改善が見られた。

参考までに、日本商工会議所がホームページに公表した LOBO 調査(2025年12月26日付)による全国・全産業の業況DI値は▲18.0で、前期の▲18.6から0.6ポイント改善した。冬期賞与の支給効果もあって消費マインドは持ち直しつつあるが、採算悪化や物価高に伴う節約志向は継続している、と指摘されている。

厚木地区は、製造・物流が持ち直しつつある影響により、他の業種も全般に改善傾向が見られるが、個人消費は依然弱く、本格回復には至っていない可能性が高い。

### 2). 次期予測(全業種)の推移



◎次期の予測では、2025 年度第 3 四半期の業況 DI 値(▲19.5)から、2025 年度第 4 四半期は▲11.9 へと、7.6 ポイント改善すると予測されている。

日本商工会議所の LOBO 調査でも、前期の▲17.3 から▲15.7 へと 1.6 ポイント改善すると予測されている。賃上げと、政府の物価高対策(ガソリン・軽油の値下げ、電気・ガス代への支援など)への期待があり、消費マインドは回復傾向が見込まれている、と指摘されている。

注)

2024 年度 2ndQ:第 2 四半期、3rdQ:第 3 四半期、4thQ:第 4 四半期

2025 年度 1stQ:第 1 四半期、2ndQ:第 2 四半期、3rdQ:第 3 四半期、4thQ:第 4 四半期予測をそれぞれ示している。

#### \*DI 値について

DI 値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す数値である。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナス(▲で表示している)の値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。前期比でマイナス数値が小さくなると改善の表れであり、大きくなると下降を意味する。あくまで感覚的なデータで、売上高などの実数値の上昇・下降を示すものではなく、企業経営者の景況感で強気・弱気などの相対的な広がりの意味する。

$$DI = (\text{増加・好転などの回答割合}) - (\text{減少・悪化などの回答割合})$$

- ただし、「商品仕入価格、原材料仕入価格、燃料油価格」は前期に比べ「イ.上昇」の回答が増えるとグラフは下降し悪化傾向と判断している。
- 「借入金」は前期に比べ「イ.増加」の回答が増えるとグラフは下降し悪化傾向と判断している。
- 「商品在庫状況」は前期に比べ「イ.増加」の回答が増えるとグラフは下降し悪化傾向と判断している。

### 3. 経営上の問題

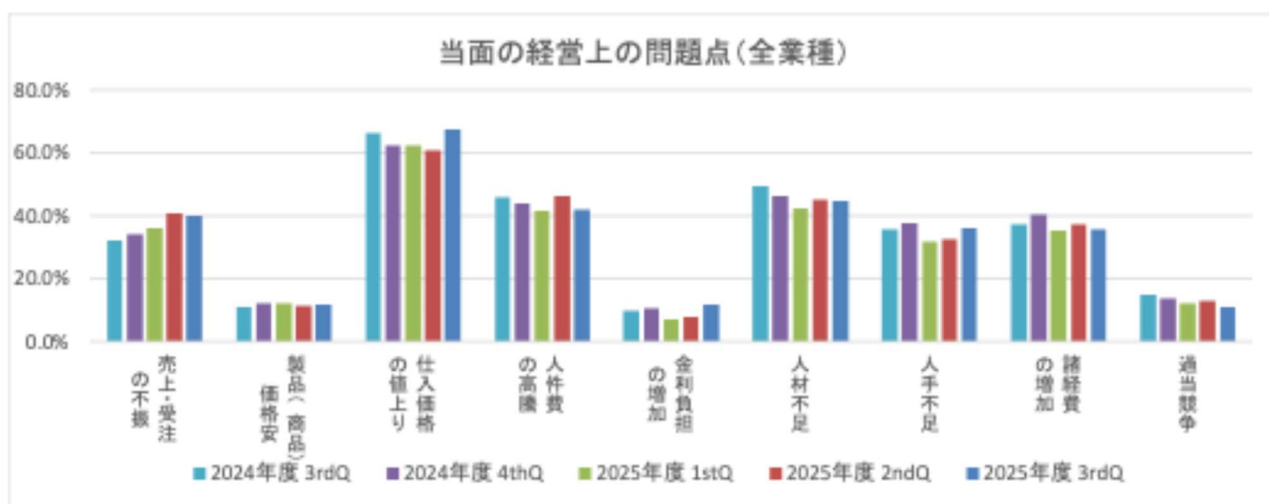
業種	売上・受注の不振	製品・商品の価格安	仕入価格の値上り	人件費の高騰	金利負担の増加	人材不足	人手不足	諸経費の増加	過当競争
製造業	47.6%	12.2%	72.0%	36.6%	13.4%	47.6%	32.9%	29.3%	8.5%
建設業	26.1%	13.0%	76.1%	47.8%	13.0%	65.2%	52.2%	39.1%	13.0%
運輸業	27.3%	9.1%	54.5%	90.9%	0.0%	63.6%	90.9%	45.5%	0.0%
小売業	53.1%	21.9%	56.3%	34.4%	9.4%	12.5%	15.6%	37.5%	18.8%
飲食業	37.5%	0.0%	100.0%	75.0%	25.0%	37.5%	37.5%	75.0%	12.5%
卸売業	27.3%	0.0%	72.7%	27.3%	18.2%	36.4%	18.2%	18.2%	18.2%
不動産業	30.0%	0.0%	60.0%	20.0%	0.0%	10.0%	0.0%	30.0%	0.0%
サービス業	38.5%	7.7%	46.2%	42.3%	7.7%	50.0%	38.5%	38.5%	11.5%
全業種	39.8%	11.5%	67.3%	42.0%	11.5%	44.7%	35.8%	35.4%	11.1%

経営上の問題点を全業種で並べてみると、「仕入価格の値上り」が最も多くあげられており、それに「人件費の高騰」「人材不足」「売上・受注の不振」が続く傾向は、これまでと大きく変わりはない。

「仕入価格の値上り」はほぼ全業種で上位にあげられており、サービス業以外の業種で60%以上となっており、その割合の高さが際立っている傾向もこれまでと大きく変わりはない。

全業種集計グラフ(下図)では、前期は全般的にわずかに悪化している傾向が見られた。今期は、前期比で「人件費の高騰」(4.3ポイント)・「過当競争」(2.0ポイント)「諸経費の増加」(1.8ポイント)は改善傾向が見られるが、「仕入価格の値上り」(▲6.7ポイント)・「金利負担の増加」(▲3.8ポイント)・「人手不足」(▲3.3ポイント)は悪化しており、項目によって異なる傾向が見られた。

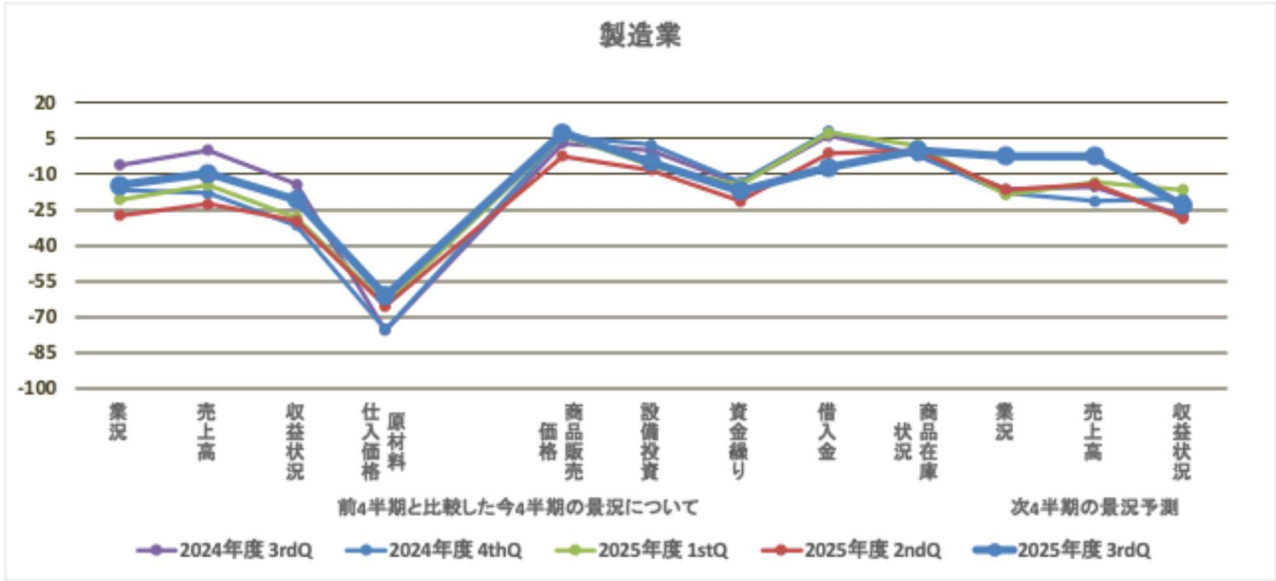
厚木地区では需要面は持ち直しつつある一方、円安・金利上昇・人手不足といった外部要因によるコスト圧力が強まっている。企業間競争の緩和や人件費上昇圧力の鈍化が見られるものの、収益環境は依然として厳しい構造が続いている。価格転嫁による「仕入価格の値上り」対策と、商品・サービスの付加価値を向上、生産性の向上(IT化、自動化など)の対策が必要である。



## II. 業種別の動き

次ページ以降に各個別の業種の景気動向及び経営の課題についてコメントします。

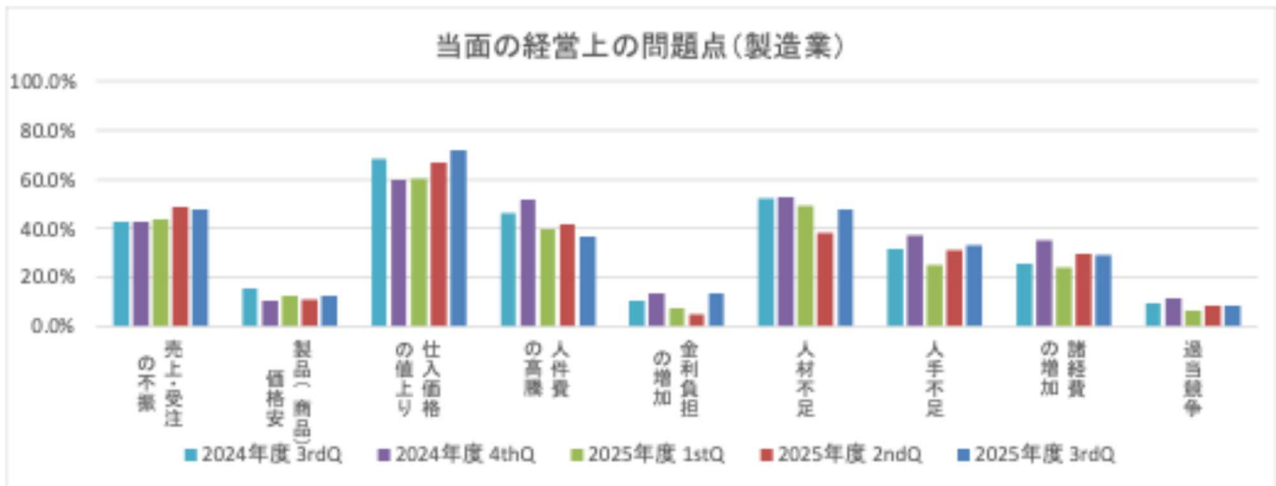
# 1. 製造業



2025 年度第 3 四半期の製造業における景況感は、前四半期と比較して改善が見られた。

「業況」は▲14.6 ポイント(前四半期▲27.4 ポイント)と 12.8 ポイント上昇し、「売上高」は▲9.8 ポイント(同▲22.6 ポイント)と大幅に改善した。「収益状況」も▲20.7 ポイントと改善の兆しがある。「原材料仕入価格」も▲61.0 ポイント(同▲65.5 ポイント)と 4.5 ポイント上昇し、改善の兆しが見られるものの、依然として大幅なマイナス圏にあり、価格高騰によるコスト圧迫が続いている。

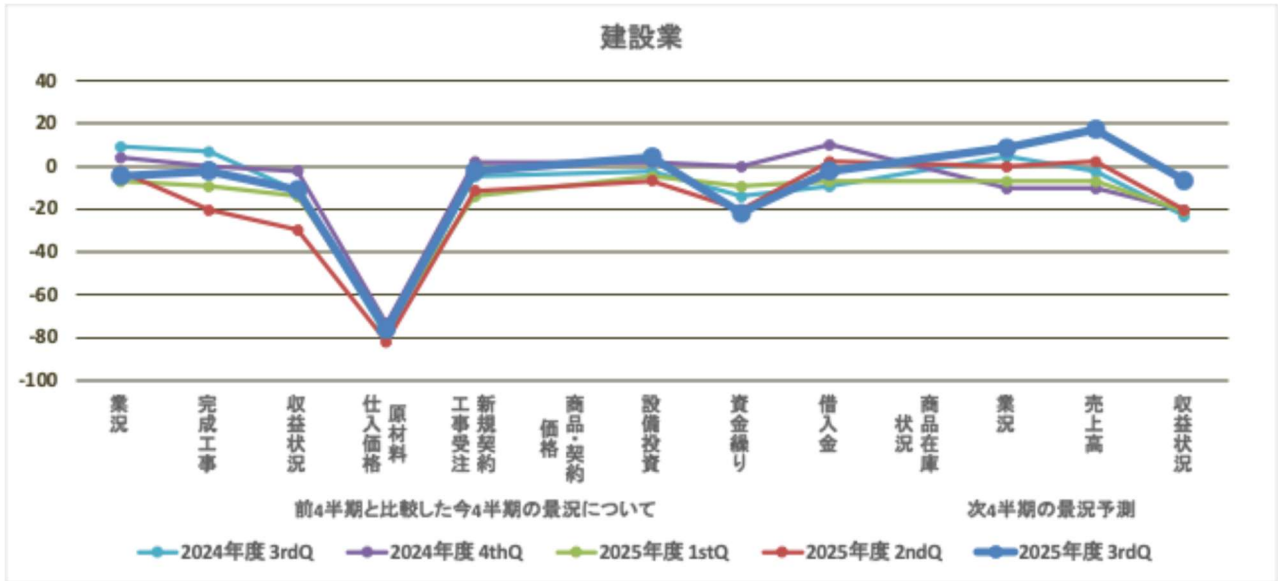
次四半期予測では「業況」が▲2.4 ポイントまで回復する見込みだが、「収益状況」は▲23.2 ポイントと悪化が予測されており、先行きへの警戒感は根強い。



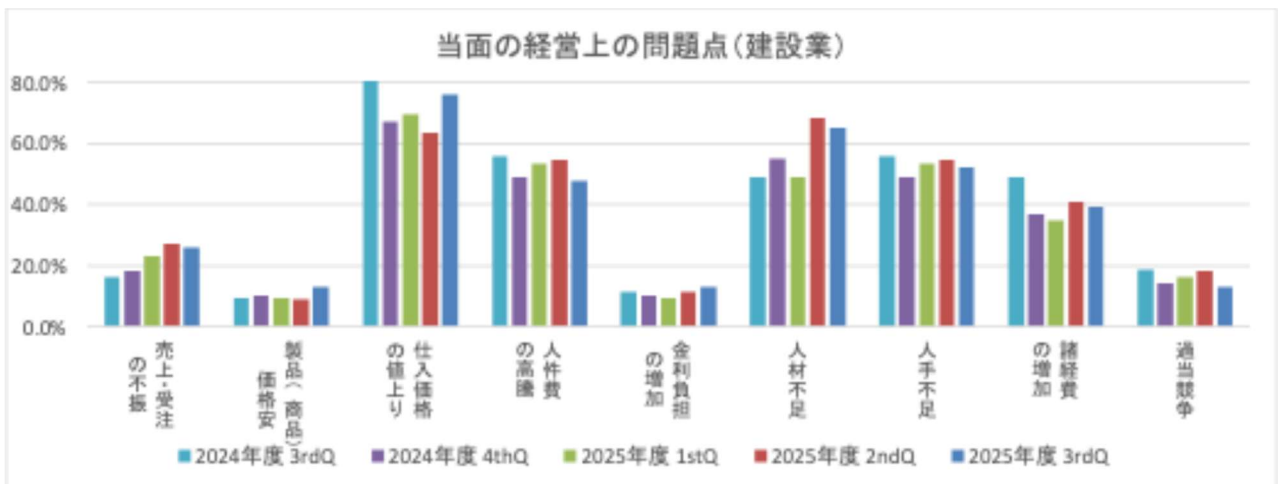
2025 年度第 3 四半期の製造業における経営上の問題点では、「仕入価格の値上り」が前四半期より 5.3 ポイント増加し、依然として最大の懸念事項となっている。また、「金利負担の増加」が 8.6 ポイントと大幅に増加しており、新たな圧迫要因となった。「人材不足」は 9.5 ポイント上昇、「人手不足」も増加に転じており、労働力確保の課題が一段と深刻化している。一方で、「売上・受注の不振」は▲1.2 ポイント、「人件費の高騰」は▲5.1 ポイントとそれぞれ減少し、負担感はわずかに和らいだ。

全体として、コスト高騰と深刻な人材難への対応が喫緊の課題である。

## 2. 建設業

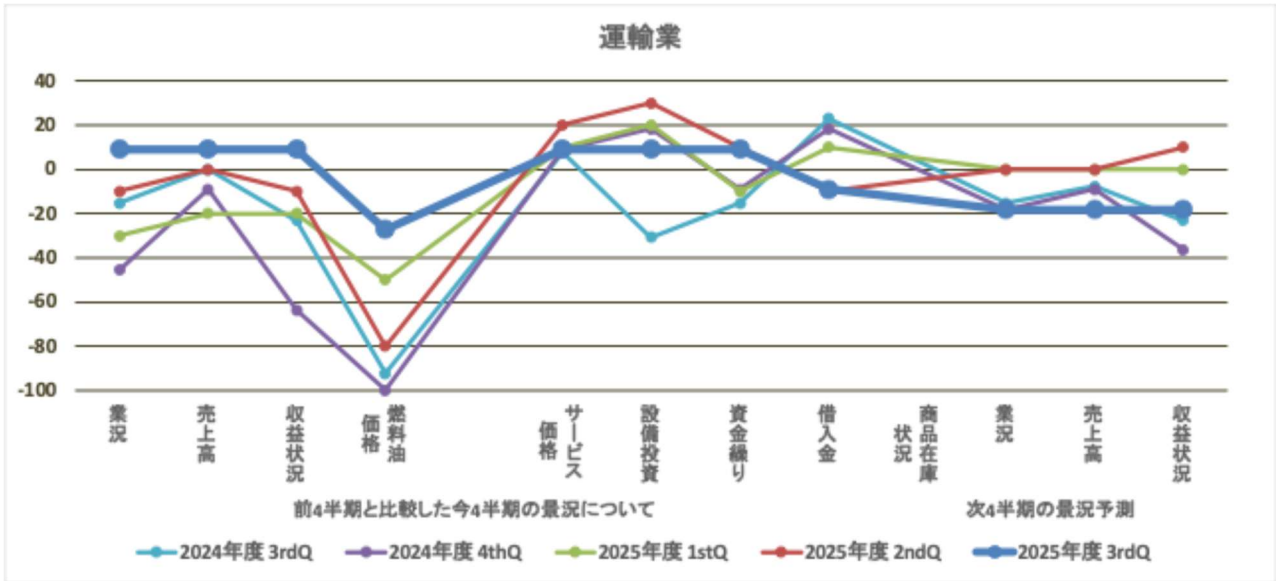


今四半期の建設業は、「業況」▲4.3ポイント、「完成工事」▲2.2ポイントと弱含みが続き、「収益状況」も▲10.9ポイントと依然厳しい。一方で「原材料仕入価格」は▲76.1ポイントと高止まりながらやや改善し、「設備投資」は4.3ポイントと持ち直してきている。コスト高と受注回復の遅れが収益を圧迫している状況と考えられる。ただし次期は「業況」8.7ポイント、「売上高」17.4ポイントと改善すると予測しており、受注残や公共工事発注への期待が背景にある可能性が高い。資材高騰分の価格転嫁徹底、工期短縮による資金回収早期化、原価管理の精緻化、利益率の高い案件選別など対策していくことが重要である。



今四半期の建設業は、「仕入価格の値上り」72.0%が最も高く、原材料高が依然として最大の経営課題として際立っている。「売上・受注の不振」も47.6%と高水準で、需要の力強さを欠く中でコスト上昇が収益を圧迫する構造が続いている。一方で「人件費の高騰」は36.6%へ低下し、賃上げ圧力はやや落ち着きつつある。「金利負担の増加」は13.4%へ上昇しており、金融環境の変化が新たな重荷となり始めている。また「人材不足」47.6%、「人手不足」32.9%と改善傾向が見られない。総じて、需要が停滞する中でコスト高が長期化していることが主因と考えられる。価格転嫁を進めていくこと、付加価値を高めることによる単価向上、仕入先多様化による調達リスクの低減、省力化投資による生産性向上などを進め、利益率を確保できる体質へ転換することが重要である。

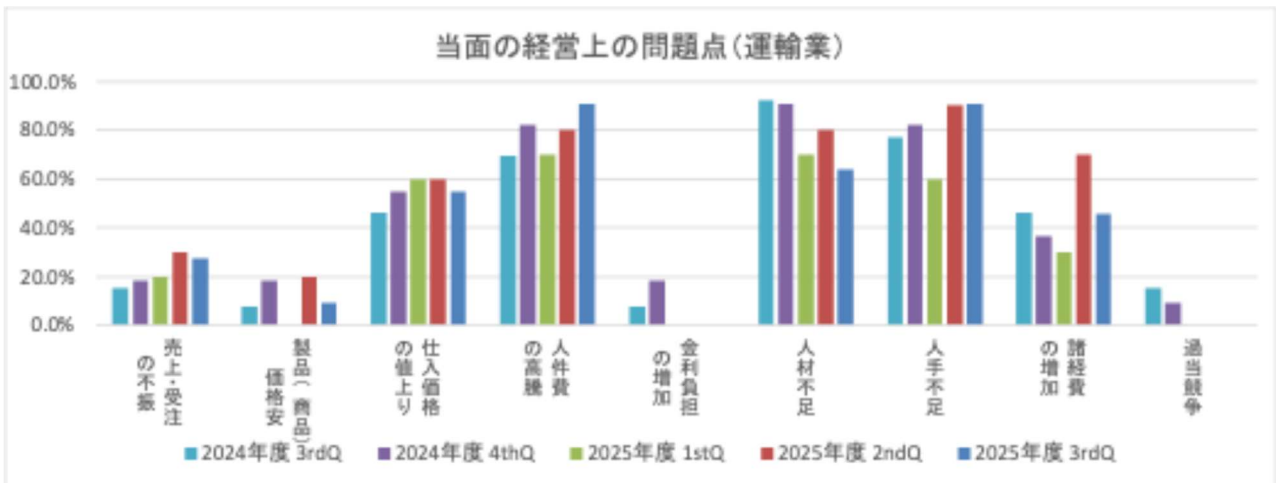
### 3. 運輸業



2025年度第3四半期の運輸業における景況感は、前四半期と比較して大幅に改善した。

「業況」は9.1ポイント(前四半期▲10.0ポイント)、「売上高」は9.1ポイント(同0.0ポイント)とプラスに転じ、「収益状況」も9.1ポイントに上昇した。最大の収益圧迫要因である「燃料油価格」は▲27.3ポイント(同▲80.0ポイント)と大幅に上昇し、コスト負担が和らいでいる。

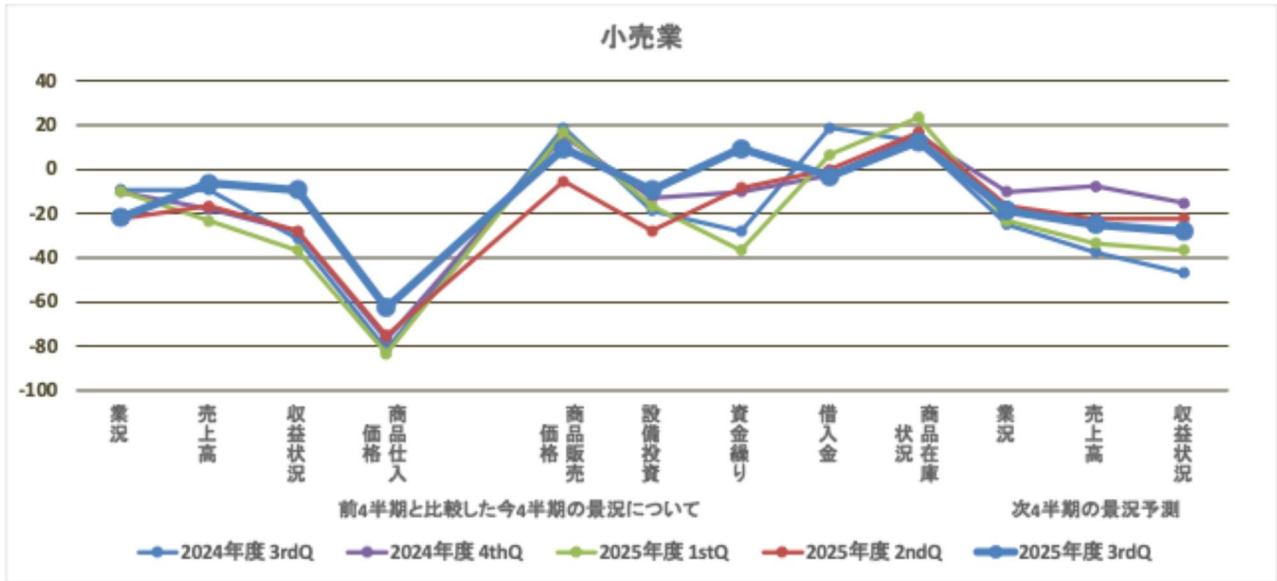
数値が大きく変動している点には留意が必要だが、今四半期は好転した。一方、次四半期予測は主要項目が▲18.2ポイントに急落しており、先行きへの警戒感は依然として強い。



2025年度第3四半期の運輸業における経営上の問題点では、「人件費の高騰」と「人手不足」がいずれも90%を超え、経営を強く圧迫している。特に「人件費の高騰」は前四半期より10ポイント以上増加しており、労務コストの増大が顕著である。一方で、「諸経費の増加」と「人材不足」は大きく減少しており、一部で負担感の緩和がみられる。

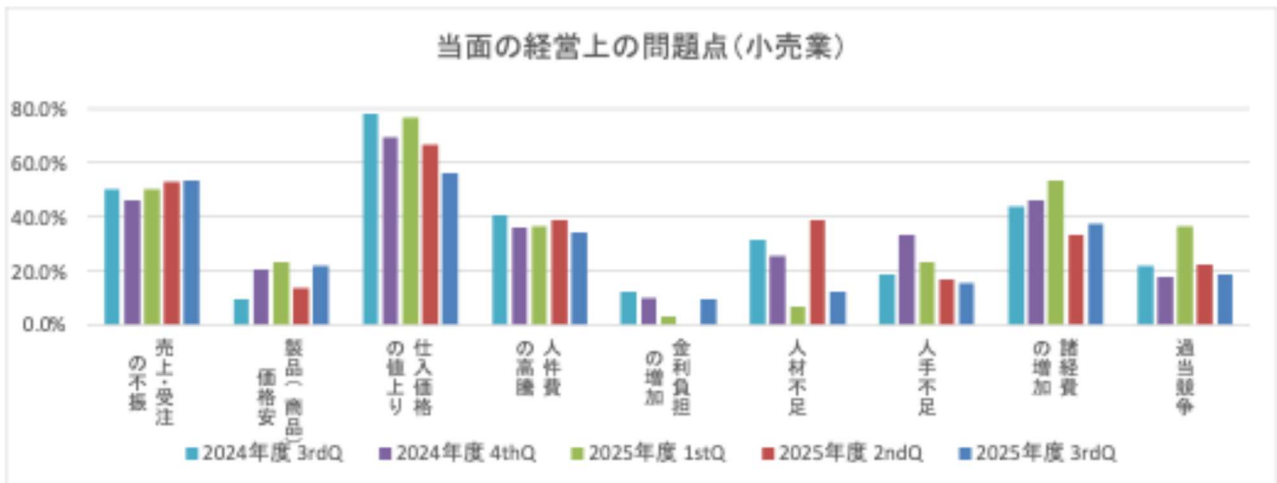
ただ、依然として「仕入価格の値上り」も高い水準にあり、労働力確保とコスト上昇への対応が引き続き重要課題である。

#### 4. 小売業



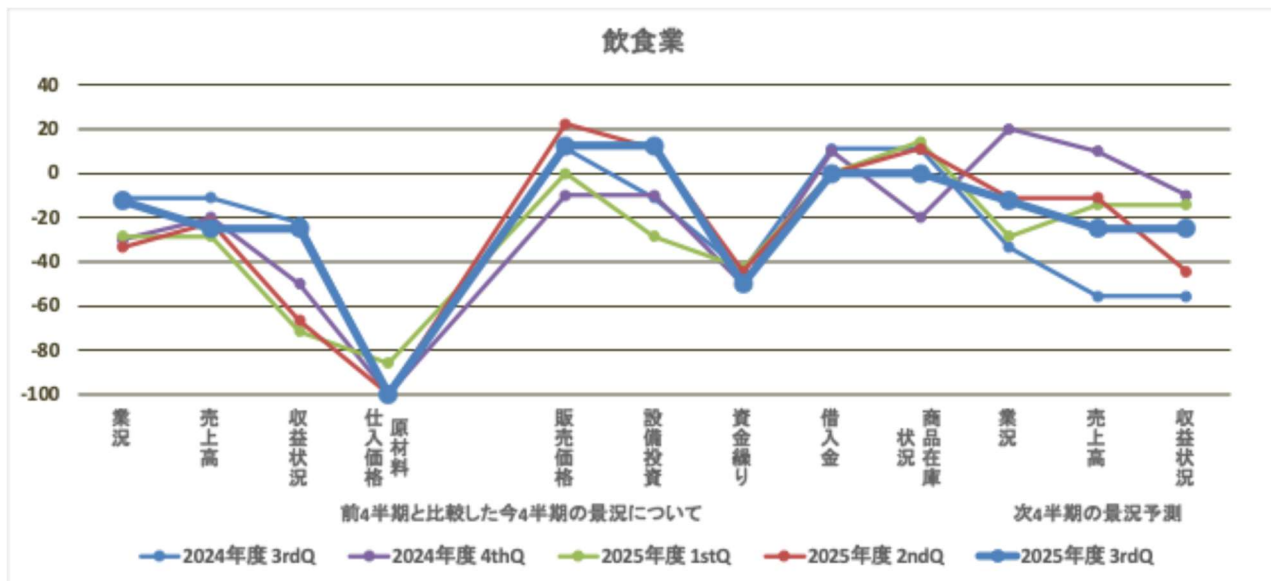
「売上高」・「収益状況」に改善が見られ「商品仕入価格」も久しぶりに底離れとなった。「商品販売価格」や、「設備投資」、「資金繰り」も、前四半期に比較し好転しており、年末・冬物商戦の季節変動の結果との見方とも言えるが、全体的な景気動向の変化であってくれればと喜ばしいところである。特に「収益状況」については、今までにない高いDI値を記録しており、収益改善が全体に波及してくれることを期待したい。

第4四半期の予測に関しては、前四半期同様良くも悪くもなし、と言ったところである。総選挙結果の影響も含め、調査時点での不透明感もあり確定的な予測は難しいところであったと思われる。



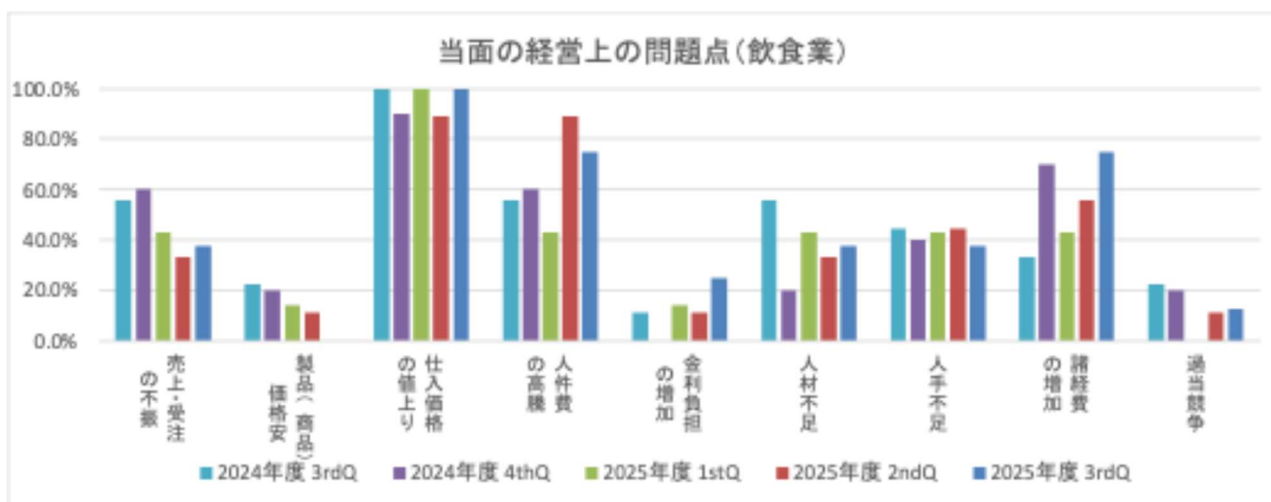
DI値の調査と呼応し、「仕入価格の値上り」に一服感が出てきた。その他の指標は、「人材不足」の項目を除き大きな変化は見られない。前四半期に、「諸経費の増加」・「過当競争」の減少については、『物価高が多少落ち着き、事業環境が改善したのなら良いことである。』と述べたが、その傾向は継続しているようである。しかしながら、「製品(商品)価格安」が多少増加しており、売り側の価格にも同じ傾向があるのは、当然ではあるが気がかりなところでもある。

## 5. 飲食業



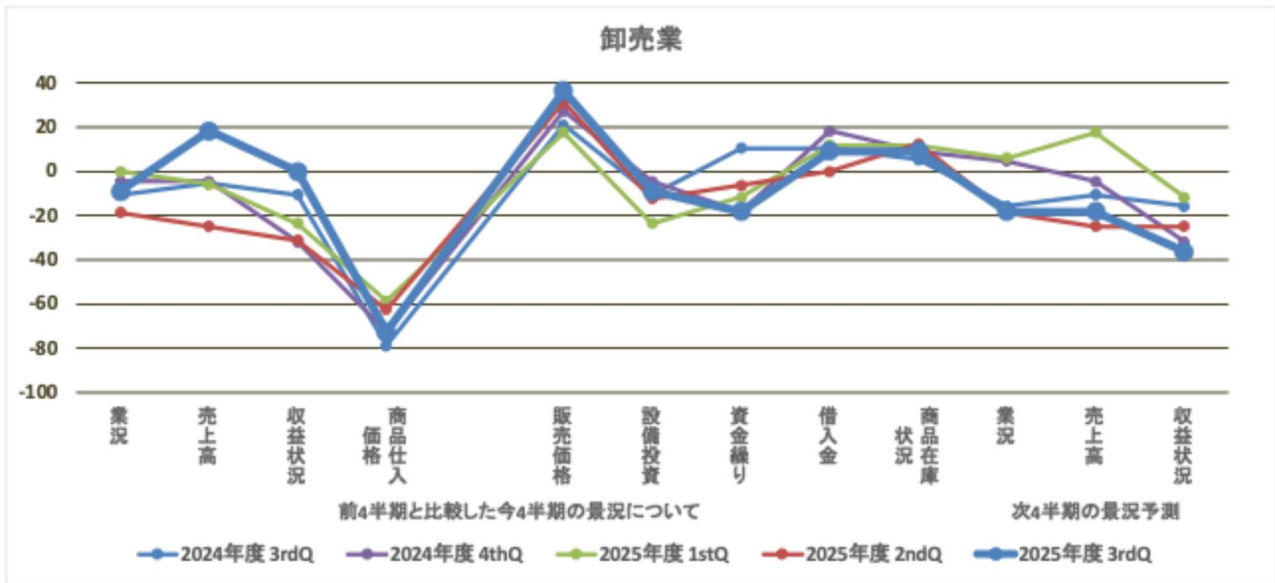
景況感に関しては「業況」が改善し、「収益状況」も大きく改善した。「売上高」がほぼ不変であり「原材料仕入価格」・「販売価格」にも大きな変化が見られない中、「収益状況」が大きく改善する意味は何であろう。下に示した当面の経営上の問題点における「人件費の高騰」・「諸経費の増加」が好転した様子もない。引き続き注視する必要があるが、年末商戦が好調であったと、想像できるのではないだろうか。

次四半期の予測については中立的な回答となっており、大きな好転も悪化も予測していない。ただ「収益状況」については、前四半期の予測のような悲観的な状況を脱したように見て取れる。

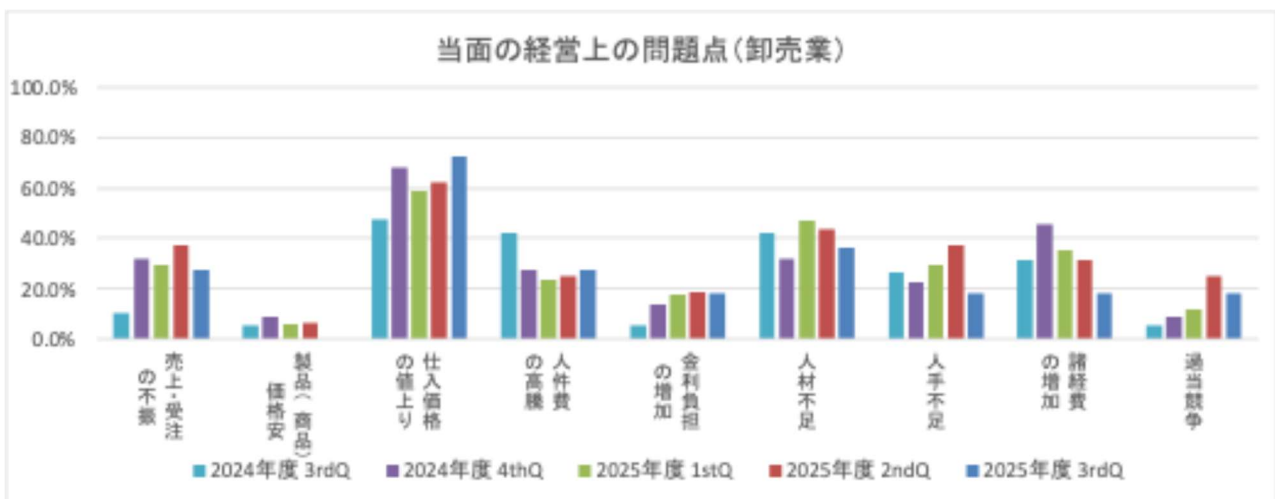


「仕入価格の値上り」・「人件費の高騰」・「諸経費の増加」のコストプッシュ要因が経営状況を圧迫している状態は不変のようである。ただ、「収益状況」の DI 値が大きく改善していることとその状態は符合せず、理解が難しいところである。金利上昇の影響か、「金利負担の増加」が多少増加している。これが経営状況の悪化につながらないように期待したい。

## 6. 卸売業

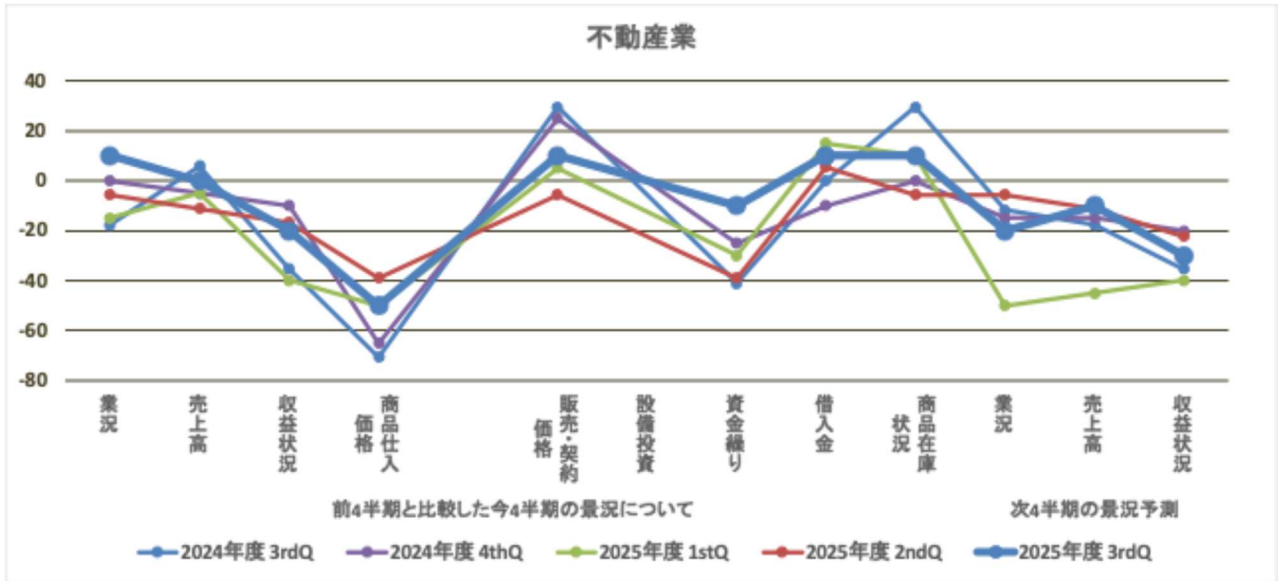


今四半期の卸売業は、「業況」▲9.1ポイントと水準はなお弱いものの、「売上高」18.2ポイント、「収益状況」0.0ポイントと前期から大きく改善している。「販売価格」36.4ポイントと価格転嫁が進み、「商品在庫状況」9.1ポイント、「借入金」9.1ポイントも改善傾向を示している。一方、「商品仕入価格」は▲72.7ポイントと依然厳しく、「資金繰り」も▲18.2ポイントと負担が大きい。売上は回復基調にあるが、原価高の影響が経営を圧迫している。背景には地域製造業の持ち直しによる取引増加があると考えられるが、次期は「業況」▲18.2ポイント、「収益状況」▲36.4ポイントと慎重な見通しで、不透明感がある。継続的な価格転嫁、在庫回転率向上による資金効率改善、付加価値商材への転換など、収益基盤を強化することが重要である。

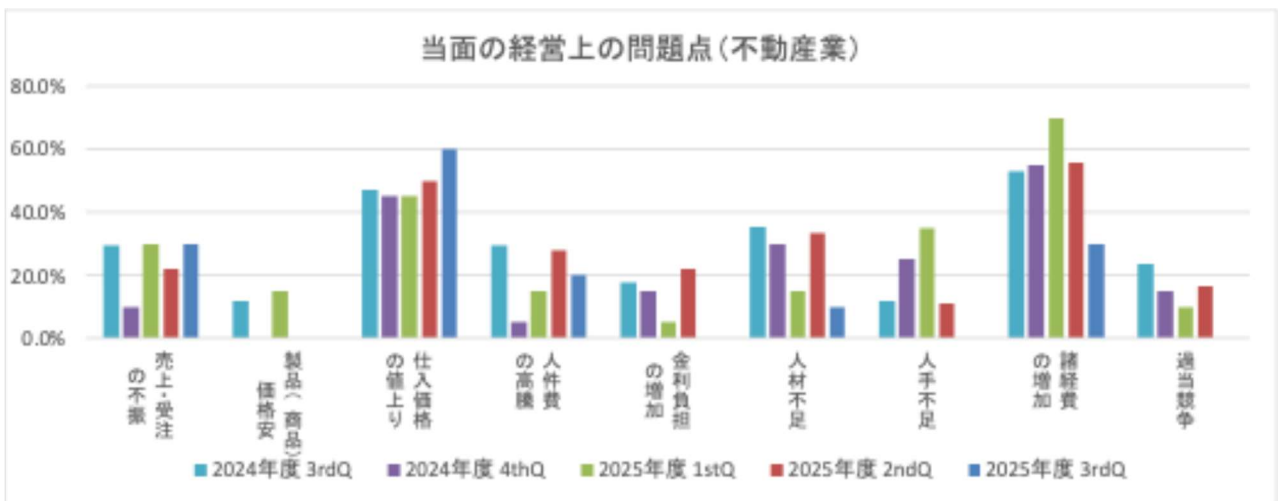


今四半期の卸売業は、「仕入価格の値上り」72.7%が突出して高く、引き続き最大の経営上の問題となっている。一方、「売上・受注の不振」は27.3%へ低下し、需要面の過度な不安はやや後退した。「製品価格安」は0.0%と価格競争圧力は弱まり、一定の価格転嫁が進んでいるとみられる。ただし「人材不足」36.4%、「金利負担の増加」18.2%などは問題として残っている。総じて、需要は持ち直しつつあるが、仕入価格高の長期化が収益を圧迫している。背景には円安や原材料高の継続があると考えられる。継続的な価格転嫁、仕入先の多様化や共同購買による原価抑制、在庫圧縮と回転率向上による資金効率の改善、さらに付加価値商材への転換により収益力を高めていくことが重要である。

## 7. 不動産業

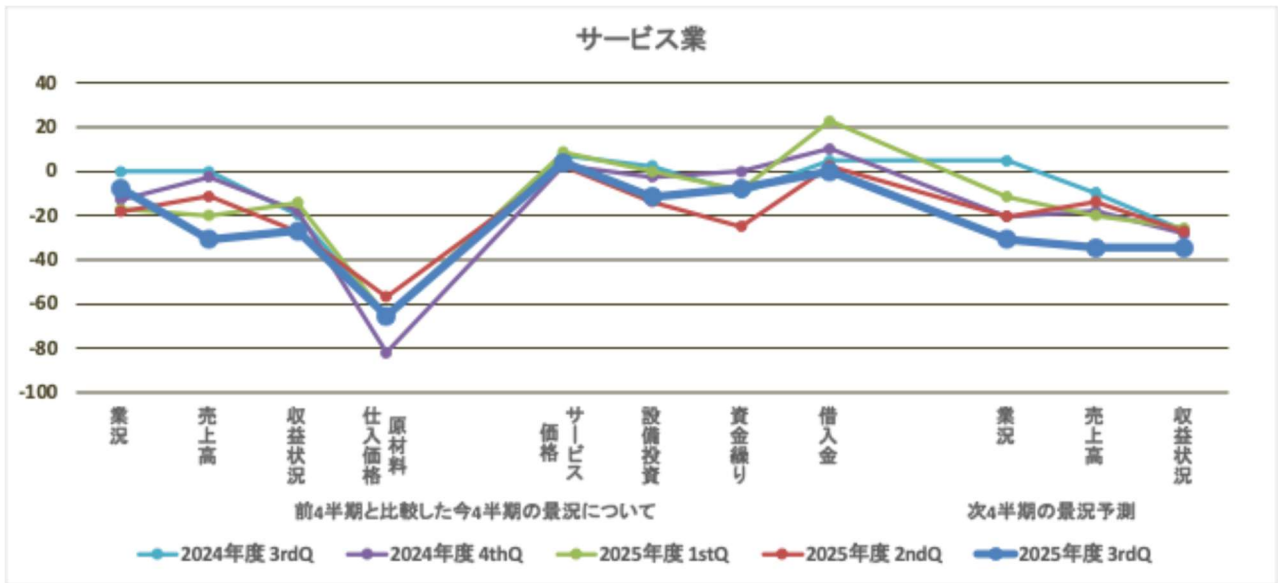


今期の景況では「業況」が前四半期に対し▲5.6 から 10.0 へ上昇し「売上高」も▲11.1 から 0.0 に上昇しているが「収益状況」は大きな変化がない。一方「商品仕入価格」では前四半期より 11.1 ポイント悪化している。「販売・契約価格」「商品在庫状況」とも 4.4 ポイントの上昇が見える。「資金繰り」が大きく上昇しているが、次四半期の景況予測では「業況」「収益状況」は悪化を見せている。グラフ全体からは前四半期に比べ良い方向を示しているのではないかと、思われる。

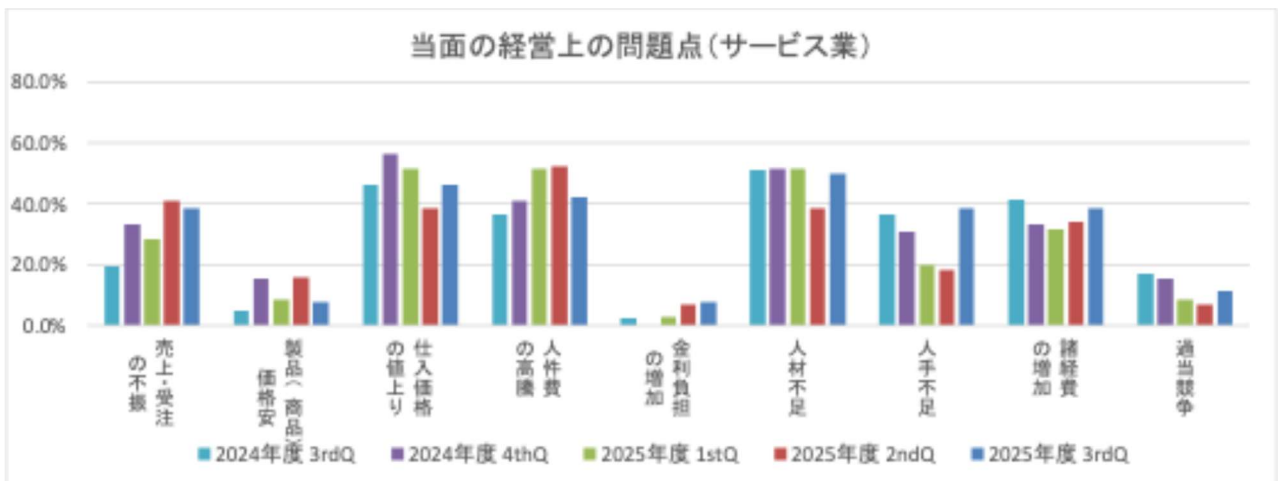


経営上の問題点をみると、グラフでは「仕入価格の値上り」が突出しており、「諸経費の増加」は大幅な減少を示している。但し、母数の%でグラフは変化するため、件数では「仕入価格の値上り」が前四半期の 9 件から今四半期は 6 件と減少し、「諸経費の増加」では 10 件から 3 件に減少しており、イメージとは異なる結果となる。また前回 4 件であった「金利負担の増加」については今回はゼロ件となっている。「人材不足」「人手不足」は各々 1 件とゼロ件であり、人材不足や人手不足に一服感が生じているのか、次回の調査でどのような結果が出るか、待ち遠しく感じる。

## 8. サービス業



今四半期の景況では「売上高」が▲11.4から▲30.8と大幅に低下が見える。「原材料仕入価格」は2024年度第4四半期の▲82.1ほどの悪化でないが、前四半期より8.6ポイント悪化している。また、前四半期に非常に悪い状態であった「資金繰り」が17.3ポイントの上昇を見せている。全体では「売上高」の下落幅が気になるところであり、次四半期の景況予測は「業況」「売上高」「収益状況」ともに悪化が予測されている。



経営上の問題点では全体的にグラフが伸びている様子が見える。「売上・受注の不振」は増加傾向を示しており、「仕入価格の値上り」「人件費の高騰」「人材不足」も高い関心事となっている。「諸経費の増加」も高止まりの感がある。前回まで下降傾向のあった「人手不足」が急に伸びているが、グラフの性格により問題点として挙げた件数では前回8件が今回10件となっている状況である。ちなみに「人材不足」は前回17件が今回13件でありグラフと異なる動きとなり、単なる件数比較でなく母数による%の変化量であることも理解する必要がある。